

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	2025年11月1日		～ 2025年11月29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2025年11月15日		～ 2025年12月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月24日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子ども一人ひとりの気持ちや特性に寄り添い、安心できる関わりを大切にしている。	・子どもの表情や行動の変化を見逃さないよう、その日の様子を職員間でこまめに共有している。	・子ども一人ひとりの支援内容を振り返る機会を定期的な設け、支援の質の向上につなげていく。
2	・遊びや制作活動を通して、楽しみながら自己表現や社会性を育てる支援を行っている。	・指示や声掛けは統一し、子どもが混乱しない関わり方を意識している。	・研修や自己学習を通して、支援に関する知識・理解を深め、専門性の向上を図っていく。
3	・職員間の情報共有ができており、支援方針に一貫性がある。	・保護者が安心して相談できるよう、日々の様子を丁寧に伝え、気軽に話せる関係づくりを心がけている。	・子どもの興味や発達段階に応じた活動内容を検討し、プログラムの幅を広げていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・支援内容や工夫が職員個人に依存しやすく、支援方法の共有や標準化が課題となっている。	・日常業務が多岐にわたるため、振り返りや検討に十分な時間を確保しにくいこと。	・定期的に支援内容を振り返る機会を設け、職員間で共通理解を深める取り組みを行っていく。
2	・職員数や勤務体制の関係により、十分な時間をかけた振り返りや検討の機会が限られる場合がある。	・利用児童の特性や支援ニーズが多様化しており、一律の支援では対応が難しくなっていること。	・子どもの興味や特性に応じた活動を検討し、柔軟なプログラムづくりを行っていく。
3	・保護者支援について、より丁寧な情報発信や関わりが必要だと感じる場面がある。	・職員の経験年数や専門分野に差があり、支援方法の共有や統一に時間を要していること。	・職員それぞれの経験や得意分野を共有し、支援方法の整理・標準化を進めていく。